

## Fling over the Himalaya

空撮ヒマラヤ越え 山座同定 書評

1980年代に残されていた7500mを超える未踏の高峰は、ナムチャバルワ7782m、ガンケルプンスム7570m、クーラカンリ7554m、の3峰であった。1986年にクーラカンリが神戸大学と中国の合同登山隊により初登頂され、1992年にナムチャバルワが日本山岳会と中国の合同登山隊に初登頂された。残るはブータンの最高峰、ガンケルプンスムだが、ブータン王国は登山を許可しない。そして、ヒマラヤの未踏峰登山の時代は終わった、と言われて久しい。

20世紀初頭のヒマラヤ探検家は山を探るのに足を使って現地に入る以外に手はなかった。またその後の登山隊は目的のピークにたどり着くためには少ない資料とルートの偵察など苦労を強いられた。今日では数多くの登山隊やトレッカーがヒマラヤを訪れるようになり、写真と現地の情報を提供してくれる。またヒマラヤ越えのフライトで広範囲にわたり空撮写真を獲得できる。さらに衛星による地球観測データが正確な地形情報を教えてくれる。技術革新が地球上の空白地帯を無くしたともいえる昨今である。

しかし、ヒマラヤの東、すなわちチベットの念青唐古拉山群、崗日嘎布山群、そして中国四川省から雲南省に展開する横断山脈には未踏、未知の山々が数多く残されている。6000mを超える未踏のピークはいまだに300以上を数えることができる。登頂されたピークは極めて少ない。

このヒマラヤの東に魅かれ、1990年から今日まで45回を超える探検を続けられたのが著者の中村保氏だ。未開の横断山脈に深く踏み入り、谷筋をくまなく踏査して多数の未知のピークを解明されてきた。氏は探検の結果を1996年に著書「ヒマラヤの東」として発表された。さらに1997年発足の横断山脈研究会を通じて情報公開し、また会員からの情報収集にも努められた。その成果は2016年発行の「ヒマラヤの東 山岳地図帳」に集大成された。

本書は中村保氏が「ヒマラヤの東 山岳地図帳」に引き続き範囲をカラコルム、インド、ネパール、ブータンなどヒマラヤ全域に広げて、空撮写真をベースに山座同定した結果を集成したものだ。ヒマラヤ越えのフライト(阿里-拉薩、カトマンズ-拉薩、カトマンズ-成都、拉薩-成都、玉樹-成都、林芝-成都)から中村保氏を含む数多くの人たちが撮影した写真を地域ごとの山々に精通している方々が分析、同定している。

対象地域は目次によると 1.Karakoram 2.West Tibet 3.Nepal Himalaya 4.North Sikkim 5.Tibet Bhutan Border 6.Yarlung Tsangpo Basin 7.Nyainqentanglha West 8.Easternmost Himalaya 9. Nyainqentanglha East 10.Kangri Garpo & Gorge Country 11 West Sichuan Highlands とほぼヒマラヤ全域をカバーしている。

8000m峰は全座が収録されている。周囲のピークを含めた俯瞰は新鮮だ。その山群の全貌を理解するのに貴重な資料となっている。例えば、カンチェンジュンガ山群では、カトマンズ-拉薩のフライトと思われるが、遠くブータンのガンケルプンスムを左手遠方に、続いてチョモラリからカンチェンジュンガ主峰とヤルンカン、そして右手にジャヌーまで、鮮明に出現しており実に壮観である。また機窓近くに展開する数々のピークもしっかり同定されている。ローチェ、エベレストからチョーオユー、またエベレストからマカルーへのパノラマは機上にもかかわらずピークの圧倒的な高さから地上での撮影のような錯覚を

覚えるショットが収められている。

シッキム北部の山々は空撮ではないが、ジョンサンピーク 7483m、カンチェンギャオ 6889m などの貴重な写真がヒマラヤンクラブのカバディア氏から提供されている。

チベットとブータンの国境地帯では赤茶けたチベット高原に堂々と鎮座するクーラカンリやガンケルプンスンが機窓に展開するが広大なチベット高原の様子をよくとらえている。

念青唐古拉西山群(Nyainqentanglha West)は青海西藏鉄道が開通して数多くの旅行者の目に触れるようになってきている。西端のチュンモカンリ 7048m と中央部にあるニイチェンタンラ主峰 7162m の二座が目立つが、6000m 級の未踏峰が多数残されている。それらのピークは鉄道から見えるものは少なくあまり注目されていない。拉薩-成都間のフライトによる空撮で全容が解明されている。

ヤルツァンポーの大屈曲点にそびえるナムチャバルワとその周辺の峰々は拉薩-成都および成都-林芝間のフライトが北方近くを通過するので多くの写真が得られている。ヤルツァンポーが大屈曲点を南下するあたりはナムチャバルワのピークから東に 30km 足らずの位置だが標高は 1000m を切っている。実に標高差約 6000m の落差である。空撮写真はどれも山群のすそ野が谷底に沈み黒々とした闇に包まれている。深いゴルジュが長年未探検地として人々を寄せ付けなかったことに納得する光景だ。

この大屈曲点の東に位置するのが全長 280km に及ぶカンリガルポ(崗日嘎布)山群だ。長らく未知の山群として残されていたが、横断山脈研究会の活動を通じて松本徂夫氏が編著「ヒマラヤの東崗日嘎布山群」にて全容を明らかにした。その後の研究で最高峰のルオニイ峰(若尼峰 Ruoni Feng 6882m)を筆頭に 47 座の 6000m 峰が確認できるが、2009 年に筆者が参加した神戸大学と中国の合同隊により初登頂されたロプチン峰(洛布青峰 Lopchin Feng 6805m)のみが既登峰でその他のピークはすべてが未踏峰である。成都-拉薩のフライトは山群の北方遠くを飛行する。この路線を旅する人から何度も写真が届いたが、澄み切った晴天に望遠レンズで撮影されなければなかなか良いショットが得られない。そのような条件でのショットが何年かかかって得られた。本書には山群の東北面のパノラマが掲載されている。このショットで初めてその姿が現れたピーク、ゲニクツ(Genikutz 6233m)が確認できる。

さて、本書のハイライトは念青唐古拉東山群の空撮であろう。複雑な稜線と谷筋を幾重にも持っている山群で、セプカンリ(Sepu Kangri 6956m)を筆頭にネナン(Nenang 6870m)などの秀麗なピークを多数有する。成都-拉薩のフライトはこの山群の真上を通過する。天候次第で航路は北に南に振れるので眼下に展開する山々は都度変化して空撮の範囲が広がるのが利点だ。

中国政府が外国登山隊にチベットの登山許可を与えない今日、本書にて未踏峰への夢を温め、調査研究を続けて来る時に備えるのも良いのではないか。

\*\*\*\*\*

2020 年 5 月 26 日

井上達男 神戸大学山岳会会員

〒501-5304 郡上市高鷲町鮎立 6037-15 e-mail: [sherpikkangri@gmail.com](mailto:sherpikkangri@gmail.com)

Cell-phone mail: [sherpika@icloud.com](mailto:sherpika@icloud.com) Cell-phone: 090-1623-7380